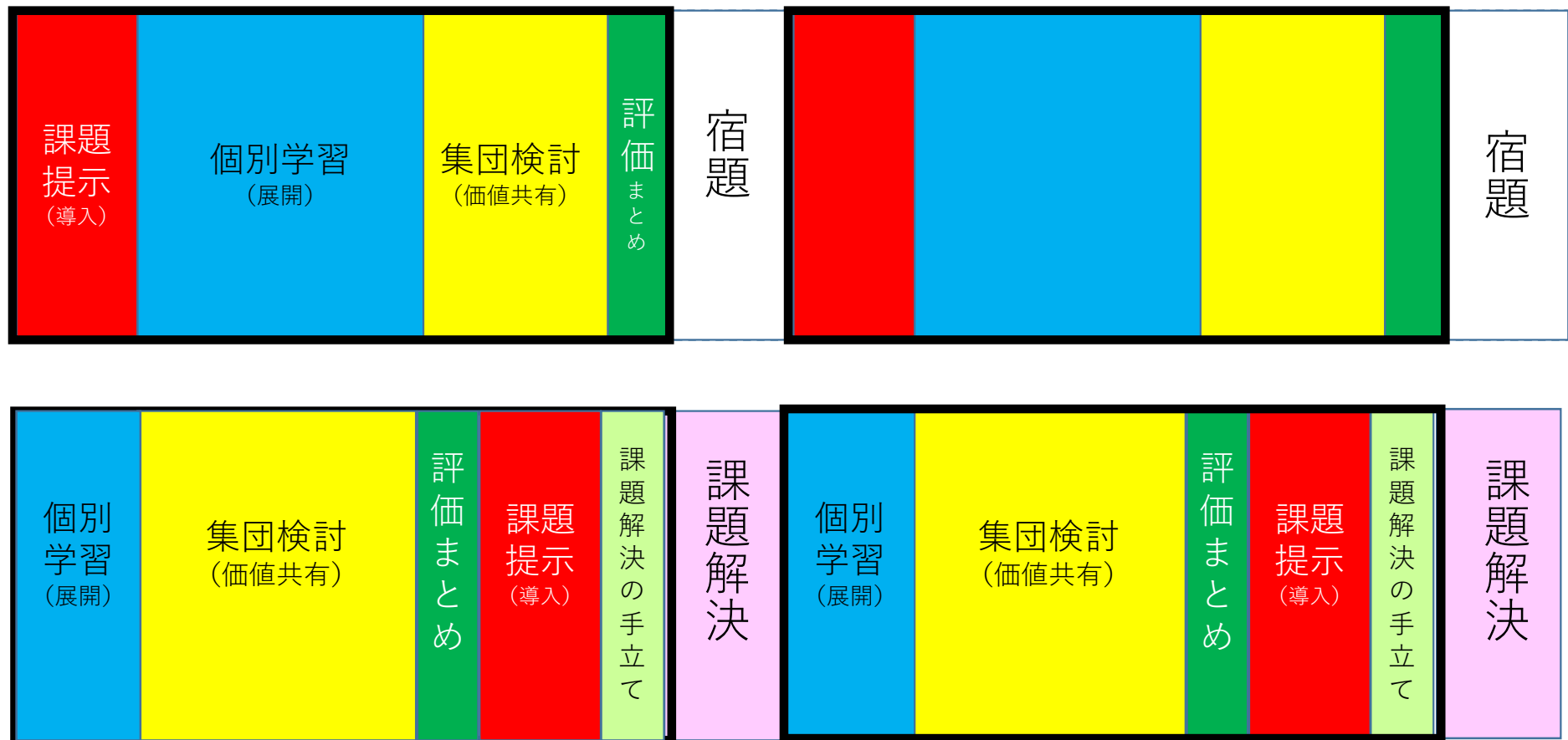


授業デザインの変革

～琴芝小学校における目標と手立て～

一斉学習の授業から 個別課題解決型（探求）の授業構成へ



フォーム（ノート等）を使った個別最適化学習(案)

【課題・疑問】 ○○は、▲▲なのだろうか？

【結果】 ・○○は、△△だから□□である。
※短文で書くこと

【調べたこと（個別）】

※自分で調べてまとめてもいい（教科書）
※自分で調べてもいい（ネット、書籍）
※人に聞いてもいい（インタビュー）
※授業中の板書でもいい

【話し合ったこと（協働）】

※話し合いのテーマや目的を明確にする

【分かったこと（箇条書き）】

・
・

【次の疑問・課題】

【次に調べる手立て】

自律的学びを支える学校教育と家庭教育の連携

学年 区分	目的（学校教育）	方法（家庭教育）
低学年	学習習慣の定着 （基礎基本の徹底、個別最適な学習の工夫：UD）	学習習慣をつけ、基礎基本の定着を図るためのドリルの学習、思いや考えを記す日記等
中学年	自分で学ぶ学習習慣 （児童の学びを連続して行うための単元学習：カリマネ）	基礎基本の定着。課題を家でやって、それをもとに授業を受けるためのフォーム（ノート等）を使った家庭学習
高学年	自ら進んで学ぶ学習習慣 （学習したことを自分の課題として広げ・深める：探求）	探求学習のためのフォーム（ノート等）を使った家庭学習、自律学習

個別最適な学習の工夫例：ドリル学習で、自分の間違ったところをやりなおし、再評価させる。難易度が違うドリル学習で、全てできたら積極的に次のステージに進み、自己の学習位置を自己判断させる。（縄跳び等でも級などでやっていることが多い）